



5月石原社長定例記者会見概要

5月28日午後3時から、石原社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<編成関連>

4月編成がスタートし、第8週が過ぎた。曜日ごとに格差があり、今一步抜け出せない状況が続いているが、ゴールデン、プライム帯は、上位局との差が徐々に詰まってきている。全日帯では新たに始まった朝の『あさチャン!』『いっぷく!』が苦戦している。両番組ともに視聴習慣がつくまである程度は時間がかかると思うがテコ入れを続けており、早期に結果が出るよう現場に指示しているところだ。4月クールのドラマに関しては、『MOZU』『アリスの棘』『ルーズヴェルト・ゲーム』が評価をいただいている。7月クールのドラマは宮部みゆきさん原作の『ペテロの葬列』、柴門ふみさんの『同窓生』、天童荒太さんの『家族狩り』、そして日曜劇場は『おやじの背中』というタイトルで山田太一さん、倉本聰さん、三谷幸喜さんなど錚々たる脚本家10人に、毎回、家族の物語を描いていただく。

<営業関連>

4月のタイムセールスは、ネットタイムではレギュラーセールスがほぼ前年並みの売上を確保したものの、単発は前年実績には届かなかった。ローカルタイムも前年実績を下回り、タイム売上全体では前年実績に届いていない。今後は、6月に『ワールドカップ ブラジル大会』、9月には『アジア大会』『世界バレー』があり、下期の改編セールスまではこうした大型単発のセールスに全力をあげたい。

一方スポットセールスは、消費税増税の影響もあり、キャンペーンが5月以降にずれ込むものが多く、4月は前年比91%強で着地した。5月は前年実績を上回る見込みで、第1四半期では前年実績並みの数字を達成できるよう、現場が頑張っているところだ。

<事業関連>

映画では、今週末の31日土曜日から、綾瀬はるかさん主演の「万能鑑定士 Q～モナリザの瞳」を公開する。松岡圭祐さん原作で累計400万部の人気ミステリーの映画化。ルーヴル美術館で日本映画史上初の本格撮影を行うなど、スケールの大きなミステリーエンターテインメント作品となっている。

舞台では、6月、7月に村上春樹さん原作、蜷川幸雄さん演出の「海辺のカフカ」を上演する。宮沢りえさん、藤木直人さんの出演で、“世界のニナガワ”のACTシアターでの初演出となる。来年にはロンドン・ニューヨーク公演が決定している。男子新体操をテーマにした舞台「タンブリング」シリーズは、「タンブリング FINAL」と題して、6月7日と8日、KAAT 神奈川芸術劇場で、そして、7月16日から21日までACTシアターで、ファイナル上演を行う。

赤坂サカス広場では、現在特設テントでTBSテレビ60周年特別企画「フェルサ ブルータ」を公演中。これまでのところ、徐々に集客を増やし、毎回1000人規模のにぎわいとなっている。6月29日まで全81公演を行う予定。

<ラジオ関連> TBSR&C 入江社長

2013年度の決算は、事業収入が僅かに前年に及ばなかったものの、費用コントロールが奏功し、営業利益、当期純利益ともに前年を上回る、減収増益であった。今年度に入ってから、タイムは厳しいスタートだが、スポットは堅調に推移している。今年度も増益を目指し、コストコントロールを年度当初から意識していく。

4月首都圏個人聴取率調査の結果、TBSラジオはグロスレーティング1.3%で77期(12年10ヶ月)連続一位をキープ。20代、30代の上昇はradikoによる好影響だと思われる。全局セットインユースも6.6と、前回から0.2ポイントアップした。

5月27日より、J:COM ケーブルテレビで、TBSラジオ、文化放送、ニッポン放送が聴けるようになった。難聴取地域のリスナーに対するサービス向上となると同時に、ラジオの新たな聴取スタイル構築につながることを期待している。

以上